山岸博光氏（昭和五〇年卒業）瑞宝単光章受賞

このたび、令和元年秋の叙勲で本校卒業生の山岸博光氏が、公務等に長年にわたり従事し、成績を挙げた方におくられる瑞宝単光章を受章されました。この機会に山岸氏に受章の喜びや高校時代の思い出などをうかがいました。

山岸博光氏（写真）は小千谷市出身で今年六三歳。昭和四七（一九七二）年四月に中越高校に入学し、三年間旧新保校舎で学びました。大学では法学部で学び卒業後は長男であったことから地元に戻り、昭和五五（一九八〇）年に新潟少年学院の法務教官になりました。平成二八年三月に退職されるまで三六年間勤められ、このたび長年の法務教官としての矯正業務への功労に対して瑞宝単光章がおくられました。（叙勲伝達式は令和元年一二月一一日に法務省で行われ、その後皇居で拝謁がありました。）

聞き手　令和元年一一月一七日に中越高校にお越しいただきお話を伺いました。

本日はお忙しいところ母校へお越しいただきありがとうございます。このたびは瑞宝単光章授章おめでとうございました。

山岸　ありがとうございます。周囲の人の助けを受けながらいただいた叙勲だけに大変うれしく思っています。

聞　どんな高校生活でしたか。

山岸　当時は現在の校舎ができる前の新保校舎に通っていました。部活動はスキー部で良き先輩や仲間に恵まれました。今でも交流が続いています。また、良き先生方に出会えたことで高校生活が大変有意義なものになりました。二・三年生の担任の牛腸先生、部活顧問の野中先生の人間味あふれる素晴らしい指導のもと仲間の大切さや物事の分別を教えてもらいました。中越高校での三年間は自分にとって人間形成の大切な時期だった思います。卒業後もお二人の先生方を中心に交流を深めさせていただき現在も時々連絡を取り合う関係ですが、残念ながら野中先生は今年（平成三一年）一月に亡くなられました。

聞　大学はどうして法学部に進まれたのですか。

山岸　自分自身に強い思いがあったわけではなく、先生や先輩の勧めで法学部にしました。大学でもスキーを続け、インカレ（全日本学生スキー選手権大会）にも出場しました。

聞　大学卒業後新潟少年院で法務教官をされることになったきっかけは何ですか。

山岸　先輩から東京の企業に就職しないかと誘われましたが、長男であったことから断って地元に戻りました。地元で一年間民間企業に勤めた後に、新潟少年学院（長岡市御山町）の法務教官募集を知り、法学部で学んだ少年法などの知識が生かせると思い試験を受けて合格し、昭和五五（一九八〇）年に教官の道に進むことになりました。

聞　法務教官の仕事はどのようなものですか。

山岸　法務教官（国家公務員）は非行少年の矯正教育を行い社会復帰を支援することが仕事です。個々の少年の気持ちに寄り添いながら教育的な指導や生活態度の指導、高卒認定試験や溶接、重機等の資格取得の指導を行います。勤め初めの頃は若かったので少年たちと良好な関係を築くことが仕事でした。サッカー、ソフトボールなどのスポーツを通じて少年たちとコミュニケーションを取り、得意のスキーの指導もしました。

聞　法務教官の仕事への思いや印象に残っている出来事を聞かせください。

山岸　法務教官の仕事は営利が目的ではなく、出院（社会復帰）した後に答が出ます。そんな彼らが出院後に家族や友人、彼女等と少年院を訪ねてきて色々な近況を話して、「更正した生活を送っているな。安定した生活をしているな。」などの会話をすることが法務教官の喜びだと思います。そんな少年と一人でも多く関わりたいと思いで勤務しておりました。

ありがとうございました。最後に大先輩として在校生に一言お願いします。

高校時代は長い人生

特別号
令和２年１月10日発行

中越高等学校
同窓会
〒940-8585
長岡市新保町1371-1
TEL(0258)24-0203(代)
FAX(0258)24-0205
HP:http://www.chuetsu-h.ed.jp/